

教員名	三浦 徹 (MIURA Toru)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	文学修士 (1986 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	miura.toru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

都市 / ネットワーク / 契約 / 市場 / 賄賂

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・「中世イスラム都市の諸相」『シリーズ都市・建築・歴史 3 中世的空間と儀礼』東京大学出版会、2006 年 3 月、pp. 277-338
- ・"Urban Society of Damascus as the Mamluk Era was Ending" , Mamluk Studies Review, 10/1, 2006, pp.157-193
- ・"Perception of Islam and Muslims in Japanese High Schools: Questionnaire Survey and Textbooks", Annals of Japan Association for Middle East Studies, 21/2, March 2006, pp. 173-192.

◆研究内容

アラブ・イスラム都市の社会経済システムの解明のために、文書史料を用いた研究を進めている。近年は、ワクフ（宗教目的の寄進）に焦点をあて、寄進された財産（とくに不動産）が、都市の社会経済基盤を整備し、農民や商人・職人が寄進財となった農地や商店や工房を賃貸借することで経済に参画し、同時に賃貸料収入が宗教施設や社会福祉に環流されるという仕組みを明らかにし、都市の発展と衰退のメカニズムの解明にとりくんでいる。また、高校生や大学生の中東・イスラム認識について、高校教員と協力してアンケートなどの調査を行いながら、中東やイスラムの理解のあり方について、実践的な問題提起を行っている。

◆教育内容

文教育学部では、比較歴史学とグローバル文化学環で授業を担当している。17年度に新設されたグローバル文化学環では、「グローバル文化学総論1」において、歴史的観点から今日のグローバル化の特徴はどこにあるのかを講義した。「グローバル・ヒストリー」では、米国の大学で使用されている世界史のテキストを用い、Q&A方式で議論する授業を行った。「イスラムの社会と文化」では、問題提起型の授業形式をとった。自然、家族、教育、商工業、裁判など、毎回のテーマごとに、授業の前と後で「視点がどう変わったか」についてレポートを求めた。またアフガニスタン女性教員との意見交換会を授業の一環として開催し、調査や質疑を通して「生」の情報から学んだ。「東洋史演習」でも英文のテキストを用い、報告者には要約ではなく「問題提起 lead the discussion」を求めたところ、討論は活発になった。いずれの授業においても、「双方向性」と体験を重視した。実験的な授業ではあったが、学生による授業評価では、高い満足度が示された。

◆将来の研究計画・研究の展望

歴史研究と地域研究をつなぐ仕事をしたい。日本の歴史研究は、日本史、東洋史、西洋史のいずれも、原史料を丹念に解読し、実証的な知の体系を築き、地球上の多様な地域の歴史文化についての情報をもっている点では、欧米と比べてもぬきんでたものがある。他方で全体像や現代とのつながりを見失いつつある。多様な歴史上の事象を比較することで、人類社会に共通する原理と地域時代による個性とを探りあてる作業を進めていきたい。そのことは、グローバル化する時代の人々の相互理解のための実践的な課題でもある。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・アジアの比較史
- ・日本における中東・イスラム認識

◆受験生等へのメッセージ

中東は、「西洋」(ヨーロッパ世界)と「東洋」(アジア)の中間に位置し、中東・イスラム世界の歴史を通して、現代世界の成り立ちをさぐることをめざしています。特に、ダマスカスやカイロなど、イスラム世界の都市社会に関心を持ち、都市の空間(ハード)と社会のしくみ(ソフト)の両面から、研究をしています。アラブ諸国に通いだしてはや15年、馬糞のにおいがしたカイロの下町は相変わらずですが、高速道路がモスクのそばを横切るようになりました。湾岸諸国にはドバイなどハイテク高層都市が出現しています。個性というフレーズで他者との違いが強調される今日ですが、人々の暮らし方、社会のあり方には、共通の感覚や知恵があります。最近、北京やカシユガル、ジャカルタなど、広くイスラム世界の町をめぐる、比較史に熱をいれています。